

暗躍語—アンヤクガタ
リ—

鈴木暁生

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

『FAIRY TAIL』に転生した主人公が、ギルド《妖精の尻尾》フェアリーテイルに加入して物語の裏側で活躍する。シナリオ

「例え泥たとどろに塗れようまみと、なお前まえへ進むすすむ者ものであれ」

全ては、彼が望み思い描く最善の未来の為に……………。

目次

E
p
i
s
o
d
e.
1
|
1

Episode. 1

『ファイオーレ王国』、人口約1700万人の永世中立国。

アースランド
この世界には魔力が溢れ、当たり前のように魔法が『魔法道具』マジックアイテムなどの形に変化して売り買いされている。魔法を使用する事を生業とする者「魔導士」まどうしが存在し、世界の人口の一割がそれに属している。

ファイオーレ王国が属する大陸に幾多も存在する「魔導士ギルド」、そこは魔導士達に仕事の仲介などをする組合組織である。

フェアリーテイル
妖精の尻尾。

ファイオーレ王国東方の街・マグノリアに本拠地を置く魔導士ギルドの一つ。聖天大魔道の一人たる三代目マスター「マカロフ・ドレーア」を始めに有力な人材を多く抱え込んでおり、「ファイオーレ王国最強のギルド」と評されている。

その一方、個性的なメンパーにより次々と問題を起こす為「ファイオーレ王国一の問題ギルド」として魔法評議院からは目を付けられている。炎を纏う滅竜魔導士^{ハカ}、空を飛び

人語を話す毒舌猫^{エクシード}、露出癖のある造形魔導士^{残メ}、鬼神の如き強さを誇る最恐女劍士^{テイターニア}……などなどいくら説明してもきりがないほどの濃い面子の多いこの《妖精の尻尾》は、ギルド全体の仲間意識は非常に高く、ギルドマスターを始めとしたメンバーは皆「家族」の様な強い絆で結ばれている。

そんな問題児を抱える、「大陸最強」にして「はた迷惑&お騒がせNo. 1」の称号を堂々と獲得する《妖精の尻尾》に、新しいメンバーが加わった。立派な星霊魔導士になる為に《妖精の尻尾》に加入した少女・ルーシー。彼女はギルド内でも問題児扱いされている「火の滅竜魔導士^{サラムンダー}」ナツによって連れて来られた。

——本来の物語ならば、そこで始まるのだった。

……しかし一年前になるが、ギルド創設後以来の最年少魔導士が加入していた。

その魔導士は、逸脱した戦闘力を持つ自覚がある故に孤立していた。

その魔導士は、11歳と言う若さで成人魔導士ランクのクエスト数件を同時に終わら

せた。

その魔導士は、評判を聞きつけた魔法評議院会の枢機卿すうききようからの直接指名で高難度クエストや討伐などの依頼を受けるようになり、ギルドに戻ることは殆どなくなつた。

その魔導士は、討伐依頼を受けて数か月前ほどマグノリアを出ていたのだが………
今、戻ってきていた。



評議院の建造物に存在する、とある評議員の執務室。

権力を象徴する華美なつくりではなく、質素なつくりをしており、必要最低限の道具などしか置かれていない。壁側にズラリと並べられている本棚は一見普通の本棚に変わりないが、そこに収納されている書物はどれも一級品の魔導書だったり機密文書だつ

たりすることは一部の人間しか理解できないだろう。

その執務室の主、グルレル・ゲーター枢機卿は依頼した魔導士の報告を受けていた。

「報告は以上です、ゲーター枢機卿」

「そうですか。急な討伐任務ご苦労、セレネ・ヴァデンバーク」

依頼を受けた魔導士、セレネ・ヴァデンバークはグルレルの労いを愛想笑いをするだけで流した。このクダリは指名を受けて以来、何回も経験しているため恒例化されている。

グルレルは音声ほうこくを記録したラクリマを後ろに控える部下に手渡す。受け取った部下はそのまま執務室を退室したのを見送ると、グルレルはセレネを接待用のソファに座らせる。

「最近買った紅茶なんです、一緒にどうでしょう？」

「貴方が選んだ紅茶はどれも美味しいのでありがたく戴きます……何か、不備な点でも見つけられましたか？」

一人でに浮かぶポットとティーカップを横目に、セレネはグレルに聞いた。この部屋で盗聴される失態は有り得ないだろうが、念の為遠まわしに確認を取るとグレルは首を振った。

「いいえ、何時も通り不備一つない報告でとても有難いと賞賛したいくらいです。本来なら成人済みの魔導士に依頼したかつたんですけど……君の様な逸材の魔導士が中々見かけないのが悩みの種になっていることぐらいですよ」

「そんなに逸材ってほどじゃないんですけど……強いて言うなら弟子は師の背中を見て育つものです。偶々自分の師匠となってくれた人物が規格外だっただけですよ」

「成程、『規格外』ですか……今まで闇ギルドを半日で壊滅させた君に『規格外』呼ばわりされる師匠さんと、是非とも一度話してみたいものだ」

クク、と愉快そうに笑いながらズレたメガネを指で戻すグレルの指摘に、セレネは気にも止めず淹れ立ての紅茶を啜る。グレルの述べたことは事実なので否定しようがない。セレネ自身も否定したところで彼の前では意味はないと理解している。その為セレネは否定もせず無言で紅茶を飲んだ。

無言を自己判断したグレルは、「では……」と姿勢を改めた。彼の合図に気付いたセレ

ネは、紅茶の入ったカップを静かにテーブルに戻した。

「フィオーレ王国北東に位置する、オークと言う街はご存知ですね」

「ええ……… 良く知っています。此処に戻ってくる前に少し寄りました」

話す内容を察したセレネは返事を返した。

「二週間前のことです。ジュード・ハートファイリアがクエストを依頼し、正式に受理されました」

「それは、随分と思い切ったことを………」

「まあ、クエスト内容を理由に近々宣戦布告するでしょう」

その後については考えていないのか、と呆れるグレルに対して反論する要素が無い。セレネは無謀な抗争を仕掛けようとするギルドに合掌した。ちなみに彼らに同情はしていない。あそこのマスターは個人的に社会的地位を抹殺されればいいのに、と密かに祈る程度の認識である。

元々幽鬼ファンタムロードの支配者と妖精フェアリーテイルの尻尾は戦力は均衡しており、昔から仲が悪く対立してい

た……。「最強」の名に酔いしれたいと、執着するマスター・ジョゼの私欲も含まれているが。

評議院側としては見過ごせない案件だ。ジョゼの起こそうとしているのはギルド間抗争禁止条約かんこうせんじじょうやくに触れ、最悪ギルドの解散命令は免れない。そうなれば、イシユガル大陸の西側に位置するアルバレス帝国に対抗する戦力を自分たちで削ぎ落とすと同意義なのだ。

……だが、グレルはあえて言った。

「この際ですから、あそこには潰れてもらいましょう」

「………よろしいので？」

「ええ、今までギリギリ規定に触れないだけであって正規ギルドの汚点けつてんに変わりありませんしね」

「……枢機卿、ストレス溜まっていますか？」

質問を微笑みで返すグレルの紳士的行動に、セレネは「失礼しました」と素直に謝罪した。これ以上刺激するのは不味いと本能が叫んだのだ。しかし、グレルはセレネの謝罪を流して言葉が続けた。

「ギルドとしては貴重な人材は点々と存在しますよ？特にエレメントフォーや黒鉄はフィオーレに残ってもらわなければ困りますけど……魔導士ならば、魔法の用途を誤ればどうなるかなど理解できない年頃ではないでしょう。

だというのに、くだらない私欲に周囲の人間を巻き込むなど愚者おろかもと言わず何と言いますか？」

ただ、彼は語っているだけだ。
話しているだけだ。

彼と会話しているだけなのだ。

「貴方らしいですね。ゲーター枢機卿」

……だが、同時に伝わるプレッシャーに冷酷さを覚え、無情な覚悟にしか感じなかつた。国の動かす政治に関わっていただけあつて、その言葉の重みはリアルに伝わってくる。

彼にとってギルドは、等しく防衛の手段であり、等しく切り札であり、等しく生活を発展させる存在を生み出す方法道具としか思っていない。そこに年齢の差別はなく、才能ある者は全て受け入れるのは彼の長所である。

だから、セレネの様な年齢の魔導士でも平然と言える。

「セレネ君、支部の方を頼みますね？」

「掃除処分ですか？」

「掃除と清掃壊滅は規模が違うだけであつて、意味合的には合っているんですよ。今回は清掃壊滅をお願いします」

まるで「ちょっとそこまで御遣い行つて来て」と軽い口調で依頼する。しかしその内容は「やるなら徹底的に叩け」という無情な指示である。

彼は才能があれば年齢関係なく引き抜くが、同時に才能が無ければ切り捨てる合理的な実力主義者だ。一回り二回り年下の少年に、「逸脱した才能を持っている」と言うことを理由に、幽鬼の支配者の各支部の処分・壊滅を躊躇なく依頼するのは、大陸探しても彼ぐらいだろう。

「…………準備が出来次第、出発します」

「タイミングはこちらの方で伝えますので、その間は身体を休ませるなりしていても構いませんよ。通信用ラクリマ持っていますよね」

「はい。分かりました」

これは、無限の可能性を秘めた魔法と各々の思惑が跋扈する世界に転生した少年によつて紡がれるバトルアクション成長物語。

「そうそう。先日、《妖精の尻尾》宛に請求書がまた来たんですが……」

「何時もの様に報酬金から差し引いても問題ありませんか？」

「……」

大丈夫です

「君とマスター・マカロフの御足労、心中お察ししますよ」

分。

である……
多